巻頭言

旭川医療センター雑誌の発行にあたって

名誉院長　箭　原　　修

旭川医療センター雑誌が発行されることになりました。今まで国内・国際学会発表や講演などは業績集に載せられていますが、論文として形になることは少ないです。医師やそれ以外の職員が増加し発表する機会が増えており、論文の形に残すために旭川医療センター雑誌を発行する時期に来ているように感じていました。平成26年の夏頃に雑誌の発行を臨床研究部にお願いしました。

初期研修医制度が始まってから若い医師は２年間の研修で忙しく、また各科を短期間で回るため、論文を書く時間や機会が少なくなっています。その一方では看護師やコメディカルは学会発表をする機会も増え、学会や講演会で聞いているとパワーポイントを駆使して上手によどみなく発表しています。また指導者も育っている感じです。

発表することと違い論文にすることは手間と時間がかかります。しかし論文にすることで発表を見直すことができ、新たなアイデアも湧くことにもなります。論文にするために関連の引用文献も読み調べますし、その中で研究の素晴らしを教えてくれます。そのような時間を使い、努力することで物事を考える力が付きますし楽しさも湧いてきます。また努力していた証が時代を超えて残ることになります。

この雑誌では、投稿された論文にたいして査読者にお願いして、その学術的レベルにも気を使っています。またISSN（International Standard Serial Number: 国際標準逐次刊行物番号）に雑誌を登録していますので、論文のデータベースを検索してみると必ずヒットします。

当院の医療雑誌なので医師だけでなく、看護師、コメディカル、それ以外の各部門から論文が出されように期待しています。載せる内容についてはできるだけ幅を広くし、投稿しやすい形式と、英語検索からもヒットするように作られると思います。

そして末永く発行され続くことが大事で、職員の質の向上と病院の発展に寄与することを心から願っています。

今回の発刊に当たっては鈴木康博臨床研究部室長に負うところが大きく、勤務の忙しい中、感謝申し上げます。

（３月記）